

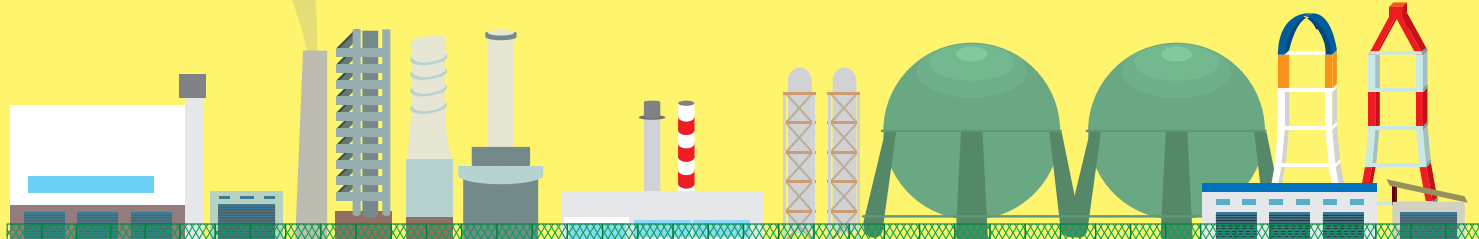
第9回 金沢大学 未来開拓研究 公開シンポジウム

平成28年

参加
無料

11月12日(土)

[時間] 13:00~16:15



《テーマ》 環日本海域から 近未来の日本の環境を探る

[場所] 一橋講堂2階 中会議場

東京都千代田区一ツ橋2-1-2 学術総合センター内

金沢大学は、「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」を大学憲章に掲げ、地球規模で遭遇する現代社会の課題に立ち向かうべく、先進的・独創的な研究の国際的な研究拠点形成を目指しています。本シンポジウムでは、著しい経済発展を続ける中国や日本などの日本海を取り囲む地域、いわゆる「環日本海域」における近年の調査研究成果、特にPM_{2.5}(微小粒子状物質)などの有害化学物質の越境汚染に関する最先端の研究を紹介。また、この環日本海域の現状から近未来の日本の環境変動に関する研究の見通しについて報告します。

12:30~ ● 受付

13:00~ ● 開会挨拶 金沢大学長 山崎 光悦

13:10~ ● 講演 「環日本海域環境研究センターの
目指す未来予想図」

[講師] 長尾 誠也 (環日本海域環境研究センター長・教授)

13:50~ ● 講演 「PM_{2.5}の国際共同観測で
見えてきた真実」

[講師] 早川 和一 (環日本海域環境研究センター 特任教授)

14:30~ ● 休憩(15分)

14:45~ ● 講演 「有害化学物質の魚類への影響」

[講師] 鈴木 信雄 (環日本海域環境研究センター 教授)

15:25~ ● 特別講演 「大気観測拠点連携で見えてくる
東アジア大気環境の現状」

[講師] 高見 昭憲 (国立環境研究所 地域環境研究センター 副センター長)

16:05~ ● 閉会挨拶 金沢大学理事・副学長 福森 義宏

未来開拓研究 公開シンポジウム

環日本海域から近未来の日本の環境を探る

本学は平成20年度から本学の世界に誇る最先端研究を紹介するイベントとして「金沢大学未来開拓研究公開シンポジウム」を開催しています。第9回となる今回は、環日本海域から見る「環境」をテーマに、最新の研究成果や今後の展望を解説いたします。

参加
無料

平成28年

11月12日(土)

[時間] 13:00~16:15

[場所] 一橋講堂2階 中会議場

東京都千代田区一ツ橋2-1-2 学術総合センター内

13:10~

環日本海域
環境研究センターの目指す
未来予想図

[講師] 長尾 誠也 (環日本海域環境研究センター長・教授)

私たちは、環日本海域が直面する深刻な環境問題を解決し、持続可能な将来環境を創り出すために、大気、海洋、陸域とこれらを統合した環境に関する教育・研究を国内外の研究機関と連携して推進しています。世界で起こっている環境問題が、環日本海域では複合的に、しかも加速された状況で進行しているため、得られる研究成果は世界の環境問題解決の基盤データとして扱うことが可能です。この講演では、環日本海域の環境の現状とともに、平成28年4月から認定された文部科学省の共同利用・共同研究拠点「越境汚染に伴う環境変動に関する国際共同研究拠点」の今後の研究展開を総合的に紹介します。

13:50~

PM2.5の国際共同観測で
見えてきた真実

[講師] 早川 和一 (環日本海域環境研究センター 特任教授)

産業革命以後、人々の生活は便利で豊かになりましたが、化石燃料の大量消費に伴う有害化学物質の放出で環境の汚染や破壊が急速に進み、地球的規模の気候変動だけでなく、人の健康や生物多様性にも影響を及ぼし始めています。とりわけ日本、中国、韓国、ロシアは、世界で最も急速に経済・産業が発展しましたが、一方で環日本海域は環境問題が極めて深刻な地域でもあります。この講演では、特にPM2.5に含まれる有害化学物質に焦点を合わせて、私たちが進めてきた国際共同研究で明らかになった発生・輸送と有害化学物質の健康影響に関する最新の知見を紹介します。

14:45~

有害化学物質の
魚類への影響

[講師] 鈴木 信雄 (環日本海域環境研究センター 教授)

平成9年1月に起きたナホトカ号重油流出事故により重油に含まれる有害化学物質が、海洋生物に異常を生じさせたことが報告されています。この有害化学物質は、PM2.5にも含まれ、日本海の海水からも検出されています。私たちは、有害化学物質による影響が検出できる魚の骨に着目し、骨を作る細胞(骨芽細胞)と骨を壊す細胞(破骨細胞)が共存する魚のウロコを骨モデルとして用いる新しい評価手法を開発し、世界で初めて宇宙空間での魚の骨の形成に及ぼす影響について解明しました(平成22年5月実施)。この講演では、日本海の水環境の現状と生態系への影響を把握するため、この新しい手法を応用し、魚の骨に対する有害化学物質の影響を解析した研究成果を紹介します。

15:25~

大気観測拠点連携で
見えてくる
東アジア大気環境の現状

[講師] 高見 昭憲 (国立環境研究所 地域環境研究センター 副センター長)

東アジアでは急速な経済発展に伴い大気汚染物質の放出が増加しています。日本はアジア大陸の風下に位置するため、冬季から春季にかけて季節風によってオゾンなどのガス状物質やPM2.5が大陸から日本に輸送されます。これらの物質は健康への影響があると考えられており、その影響を理解するためには化学組成を測定することが重要です。国立環境研究所では福岡、長崎、沖縄において、PM2.5などの化学組成を測定しています。金沢大学の能登半島での観測などと比較を行い、越境輸送の実態や東アジアの大気環境について報告します。

参加申込

参加ご希望の方は、電話・FAX・電子メール・Webにてご氏名・ご連絡先をお知らせのうえ、お申し込み願います。

※目的以外の利用及び第三者への提供はいたしません。

申し込み締切

平成28年 10月28日(金)

お申し込み・お問い合わせ先

金沢大学総務部総務課総務係 〒920-1192 金沢市角間町

TEL 076-264-5010

e-mail ffk@adm.kanazawa-u.ac.jp

FAX 076-234-4010

URL http://www.kanazawa-u.ac.jp/

ACCESS MAP

学術総合センター
(一橋講堂2階 中会議場)
〒101-8439
東京都千代田区一ツ橋2-1-2
TEL: 03-4212-3900(代表)

- 東京メトロ半蔵門線、都営地下鉄三田線、都営地下鉄新宿線 神保町駅下車A9出口から徒歩3分
- 東京メトロ東西線・竹橋駅下車1b出口から徒歩4分

